

2022年度 事業報告書

公益財団法人 日本ハンドボール協会

【2022年度 事業の概況】

日本ハンドボール協会(以下“JHA”)は、中央競技団体として未来の価値創造・価値活用に向け2019年より構想を練り取り組み始めた中長期普及・マーケティング戦略に基づき、2021年に度中期計画を策定し各種事業の遂行、「MY HANDBALL」を活用した経営力強化に取り組み、2022年度もハンドボールの価値を高めることにつとめた。

戦略の一つとして、JHAは、一般社団法人日本ハンドボールリーグ(以下、“JHL”)を法人化、JHA事業のひとつであった日本ハンドボールリーグ事業をJHLに譲渡、2022年3月末には50百万円の基金をJHLに拠出、ハンドボール界の発展のためJHLを支援した。

2021年12月にはJHLが「次世代型プロリーグ構想」(以下“新リーグ構想”)を発表していたが、再度検討されることとなった。一般社団法人化、並びに新リーグ構想策定の過程で、JHAとしてもJHLと連携のうえ、ガバナンスコード対応を支援していくこと、積極的にJHLと加盟チームとの連携強化を支援していくことが必要であったことを反省し、さらなるハンドボール界の発展のためにJHLの組織強化支援、JHL・加盟チーム両者の連携強化など体制の再整備に取り組んでいる。

一方、コロナ禍において男子代表チームが2022アジア選手権の辞退を余儀なくされ、広州でのアジア競技大会も延期される中、ジャパンカップ「日韓定期戦」を4年ぶりにJHA主催で開催し、今までとは異なった方法でマーケティング、チケットングなどに挑戦した。会場となった「エントリオ」をハンドボールファンで埋め尽くすことができたことは、ハンドボールの魅力を変え財源にする取り組みの一步として評価できるものと考えている。

JHAが2021年度より導入した会員登録システム「MY HANDBALL」は競技体験の向上や「する人」「見る人」「支える人」などすそ野を増やす取り組みとして10万人と言われるハンドボール関係者の登録料の収受とデータ・プラットフォームとして着実に進歩しつつある。今後は、JHA主催大会のみならず、JHLリーグ戦の券売プラットフォームとして利用されることも期待される。

教員の働き方改革に起因する部活改革により、ハンドボールの競技人口は今後減少する可能性が高くJHAを取り巻く環境は益々厳しくなることが予想される。(以下「競技登録者の状況」参照) 幸いアンダーカテゴリーでは、男子U-21代表が2022アジア選手権で初優勝、女子U-20代表が2022世界選手権9位という好成績を納めた。まさに世界の上位に手が届く状況にある。これら有望な選手は、JHLチームでの活躍が期待されJHLのファン層の拡大にも寄与するであろう。ハンドボール競技の普及、育成及び強化を通じた持続的なハンドボール界の発展の為に、JHLを始めとする加盟団体、選手、ファン、サポーターなどのStakeholderと一丸となって、財政面を含めた持続的な体制作りを引き続き取り組み、MY HANDBALLによるハンドボール界全体のマーケティング戦略を進め、加盟団体、加盟チームはじめ関係者すべてにそのメリットを還元できるようつとめたい。

以下、今年度の活動を振り返る。



【2022年度 事業報告】

1. 競技力向上に関する事業

(目標)

1. 2024パリオリンピック大会出場の為、世界基準のフィジカル・技術&戦術・メンタルの向上を図る。
2. 男子は欧州以外の世界で Top 5、女子は世界で Top 8 を目標、
3. 本年度アジア競技大会で男女ともに優勝を目指す。
4. 「2024&28 強化戦略プラン」の策定と計画的な実行を推進する。
5. 指導普及本部と連携し、将来人材（選手および指導者）の育成を推進する。
6. 日本代表のアイデンティティを確立し、応援され、憧れられるチームを目指す。

1) 男子日本代表

新型コロナウイルス感染症により、昨年度のアジア選手権を辞退したことやアジア競技大会が延期されたことにより、今年度は国際大会への出場が叶わなかった。国際親善試合として、3年振りとなる日韓定期戦（ホーム&アウェイ）やスイスのイエローカップを行い、実践経験を積むことができた。

次年度は自力での2024パリオリンピックの出場権獲得に向け、ダグル監督のもと引き続き強化活動を行っていく。

(1) 国内強化合宿

- ・第1回強化合宿 4月1日～4月17日 (NTC) 41名参加 (選手26名、スタッフ15名)
- ・第2回強化合宿 8月26日～9月2日 (NTC) 37名参加 (選手20名、スタッフ17名)
- ・第3回強化合宿 12月27日～1月2日 (NTC) 43名参加 (選手25名、スタッフ18名)

(2) 海外遠征

- 第1回欧州遠征 1月2日～1月10日 (スイス) 27名参加 (選手20名、スタッフ7名)

(3) 国内強化試合

日韓定期戦を3年振りにホーム&アウェイにて開催した。

- 日韓定期戦 9月4日 (愛知) ○25-19
- 9月7日 (韓国) ●23-33
- 27名参加 (選手19名、スタッフ8名)

(4) アジア競技大会 (9/8～25 開催国：中国・杭州)

新型コロナウイルス感染症拡大のため延期

2) 女子日本代表

高校生男子チームとの実戦による強化とハンドボールの普及活動の両立を目的に、全国各地から協力いただき強化合宿を実施した。3年振りとなる日韓定期戦（ホーム&アウェイ）を開催し、2敗とはなったが国際経験を積んだ。アジア選手権では、決勝で韓国相手に延長戦に持ち込んだが敗れ2位という結果になった。自力でのパリオリンピックの出場権獲得に向け、楠本監督のもと引き続き強化活動を行っていく。

(1) 国内強化合宿

- ・第1回強化合宿 4月10日～4月22日 (NTC) 48名参加 (選手31名、スタッフ17名)
- ・第2回強化合宿 4月30日～5月8日 (大分) 33名参加 (選手25名、スタッフ8名)
- ・第3回強化合宿 5月16日～6月4日 (徳島・福井・石川・大阪) 31名参加 (選手21名、スタッフ10名)
- ・第4回強化合宿 8月22日～8月31日 (北海道・鹿児島)
- 9月9日～9月18日 (熊本・広島) 25名参加 (選手17名、スタッフ8名)
- ・第5回強化合宿 11月8日～11月21日 (石川・NTC) 32名参加 (選手24名、スタッフ8名)

(2) 海外遠征

新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

(3) 国内強化試合

日韓定期戦を3年振りにホーム&アウェイにて開催した。

- 日韓定期戦 9月4日 (愛知県) ●19-25
- 9月7日 (韓国) ●19-23

25名参加（選手17名、スタッフ8名）

(4) アジア競技大会（9/8～25 開催国：中国・杭州）

新型コロナウイルス感染症拡大のため延期

(5) 女子アジア選手権 11月21日～12月4日（韓国）

優勝：KOR、2位：JPN、3位：CHN 29名参加（選手21名、スタッフ8名）

3) 男子アンダーカテゴリー代表

新型コロナウイルス感染症により中止となっていたアジア選手権が開催された。

男子U-21については、アジア選手権で中東勢に勝利し、初優勝を成し遂げることができた。

男子U-19については、中東勢に勝利するものの決勝トーナメントで韓国、サウジアラビアに敗れ4位となった。両チームとも次年度の世界選手権に向け、引き続き強化活動を行っていく。

(1) 国内強化合宿

男子U-21

- ・第1回強化合宿 5月24日～5月27日（神奈川県） 32名参加（選手24名、スタッフ9名）
- ・第2回強化合宿 6月14日～6月18日（東京都・埼玉県） 23名参加（選手18名、スタッフ5名）
- ・第3回強化合宿 7月10日～7月12日（NTC） 25名参加（選手18名、スタッフ7名）

男子U-19

- ・第1回強化合宿 6月27日～6月30日（NTC） 29名参加（選手19名、スタッフ10名）
- ・第2回強化合宿 8月11日～8月14日（NTC） 28名参加（選手18名、スタッフ10名）

(2) オンライン合宿

- ・第1回オンライン合宿 4月16日、17日、23日、24日（オンライン） 38名参加（選手32名、スタッフ6名）
- ・第2回オンライン合宿 7月9日、10日、16日、17日（オンライン） 40名参加（選手33名、スタッフ6名）
- ・第3回オンライン合宿 2月11日、19日、3月18日、19日（オンライン） 35名参加（選手29名、スタッフ6名）

(3) 男子ユースアジア選手権 8月20日～8月31日（バーレーン）

優勝：KOR 2位：IRN 3位：KSA 4位：JPN

28名参加（選手18名、スタッフ10名）

(4) 男子ジュニアアジア選手権 7月12日～7月24日（バーレーン）

優勝：JPN、2位：BRN、3位：KUW

25名参加（選手18名、スタッフ7名）

4) 女子アンダーカテゴリー代表

女子U-20については、IHFからの推薦により、第23回女子ジュニア世界選手権に急遽参加できるようになった。短い準備期間ではあったが、過去歴代2番目となる9位という成績を収めることができ、大会ベスト7に選手1名がノミネートされた。女子U-18については、女子U-20と合同の強化合宿を計画していたが、女子U-20が世界選手権に出場することになったため、今年度の活動を中止とした。

(1) 国内強化合宿

女子U-20

アンチ・ドーピング研修 5月23日（オンライン） 25名参加（選手18名、スタッフ7名）

第1回強化合宿 6月11日～6月17日（石川県） 23名参加（選手18名、スタッフ5名）

(2) 女子ジュニア世界選手権 6月17日～7月3日（スロベニア）

優勝：NOR、2位：HUN、3位：NED、9位：JPN 26名参加（選手18名、スタッフ8名）

5) 強化委員会の活動

強化戦略プランの作成・改廃・進捗チェック

(1) 強化育成戦略プランおよび段階的人材管理ツール（FTEM）作成プロジェクト参画

2022年度アスリート育成パスウェイ構築のための研修会（ベーシック）

実施（対面・オンライン）（発掘・育成・国際との協働）

- ・第1回研修会 7月14日、15日
- ・第2回研修会 10月13日、14日
- ・第3回研修会 12月15日、16日

(2) 日本スポーツ振興センター（以下、JSC）・JOC・NF 協働コンサルテーション

協働チームによるコンサルテーション 12月21日実施（対面・オンライン） 4名参加

- ・「2024・28年強化戦略プラン」を改訂し、協働チームと共有
- (3) 強化委員会（1回/月）開催
 - （臨時）強化委員会 15回/年 実施（オンライン）
 - ・2022年度各カテゴリー日本代表チームの国際大会派遣検討
 - ・2022年度第2～4四半期JOC強化スタッフを選出し、JOCへ推薦
 - ・2023年度第1四半期JOC強化スタッフを選出し、JOCへ推薦
（強化・情報科学・体力科学・メディカルサポート委員会との協働）
 - ・2022年度第2～4四半期JOC強化指定選手を選出し、JOCへ推薦
 - ・2023年度第1四半期JOC強化指定選手を選出し、JOCへ推薦
 - ・2022年度アスリート助成候補選手を選出し、JOCへ推薦
 - ・第31回JOCジュニアオリンピックカップ大会における優秀選手の選出

6) 情報科学委員会

- (1) ICT を活用した効果的な情報の収集・集積・フィードバックのシステム構築を推進する。
インターネットやSNSを用いた情報収集を行い、対戦国チームのチーム情報およびフレンドリーマッチや大陸予選などの映像を取得し、それら情報は、XPSサイドラインを用いて集積を行い、チームスタッフや情報科学委員会内での情報の共有を行った。また試合時の情報フィードバックとして、ITCを用いたリアルタイムフィードバックシステムを開発し、国内外問わずに現地へ試合の統計情報などのリアルタイムフィードバックシステムを試作し、その利用を試みている。
- (2) 男女シニア・アンダーカテゴリー（男女 U-21・U-19 チーム）代表チームへの ICTおよび情報収集
文析などの活動支援
担当アナリストおよび情報分析サポートチームが練習時や大会時に様々な情報（映像、生体情報、位置情報などを含む）の収取・集積・分析を行いチームの強化活動の支援を行う。
 - ・男子日本代表
担当アナリストが東京オリンピックの国内合宿に帯同し、練習時・トレーニングマッチ時の量的・質的分析をおこない、チーム力向上を目的としたスタッフ・選手のコミュニケーションを活性化するデータの提供を行った。活動内容としては、トレーニング中の映像撮影による選手へのフィードバックや戦術の理解、個々のスキル改善等、多岐に渡り実施した。担当アナリストが帯同し、これまで同様に、チーム力向上にむけた資料作成のため練習及びトレーニングマッチ時の量的・質的分析を行った。また、昨年度まで女子代表チームで行われてきた心拍数でのトレーニング状況の把握も始め、効果的なウォーミングアップ強度やトレーニング時の疲労状況についての把握も行うことを始めた。
 - ・女子日本代表
担当アナリストが国内合宿に帯同し、練習時・トレーニングマッチ時の量的・質的分析をおこない、チーム力向上を目的としたスタッフ・選手のコミュニケーションを活性化するデータの提供を行った。練習及び試合（公式戦も含む）時に心拍数の管理を行い、効果的なウォーミングアップ強度の管理も行った。女子アジア選手権とこれら大会前の国内合宿に担当アナリストが参加し、トレーニング中の映像撮影による選手へのフィードバックや戦術の理解、個々のスキル改善等などのための資料を作成しチーム力向上に貢献した。
 - ・アンダーカテゴリー代表チーム
男女それぞれのアンダーカテゴリーチームの国内合宿および国際大会へアナリストを派遣し、チーム力向上にむけた資料作成のため練習及びトレーニングマッチ時の量的・質的分析を行った。特に、U-20女子代表チームでの世界選手権とU-19男子代表チームのアジア選手権では大会期間中には、国内で帯同アナリストの後方支援をするアナリストチームを発足させ、試合時にそれぞれの自宅からインターネットを通じて集まり、リアルタイムに試合を分析することで現地に情報を発信し続けた。
 - ・アナリストチーム
東京オリンピック大会期間中には、男女それぞれの担当アナリストの他に、4名のアナリストをANTCに集合させ、男女チームおよびそれぞれの対戦相手チームの量・質的分析をより高度に、より詳細に行うことで、担当アナリストの後方支援を行うシステムを構築した、それを発展させ、現在では、この自宅からインターネットを用いて集まり、日本チームや対戦国チーム行っている試合のライブ分析を行い、その量・質的な分析情報をリアルタイムに現地のアナリストへ提供するシステムと構築

し、それらを試行した。今年度は、従来まで帯同する担当アナリスト1名に過大な負担を強いていた業務を試合現場にいない数名のアナリストが対面およびオンラインといった2つの手法を用いてサポートするという体制ができ、従来よりも効率的な分析を行い、より高度な情報をより短時間に提供することのできる体制を構築することができた。

以下、データ共有ダッシュボードの一例

<https://lookerstudio.google.com/reporting/f6d0bfd6-536f-444e-912e-6f7ef3217af9>

(3) 大会テクニカルレポートの作成

代表チームの主要大会参加後、大会にて収集した情報を用いて定性的・定量的なテクニカルレポートを作成した。

7) 体力科学委員会

本年度の体力委員会の事業内容は、以下の二つであった。

- (1) 国内体力測定実施・フィードバック事業； 2017年から収集しているジュニア選手（小5から高2まで）の体力データを用いて、新たな体力基準・レベルを示す。
- (2) 海外体力分析評価事業； 国外選手の体格・体力の情報を収集し分析することで、世界水準の体格およびフィットネスレベルを探索する。

本委員会の中心事業は、ジャパンライジングスタープロジェクト、NTSブロックトレーニング、NTSセントラートレーニング、NTA（アカデミー）参加選手、アンダーカテゴリー代表選手の体力データベース作成・基準づくり・現場運用である。2017年度から継続している新体力テスト測定事業は今年度で6年目を迎えたが、2020年1月より世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の影響により、2022年度の体力科学委員会事業も極めて制限された中での実施となった。今年度の体力委員会事業として、本委員会が直接関与している ジャパンライジングスタープロジェクト体力状況報告（1期から5期）、NTSに参加した過去5年間（2017年から2021年まで）のジュニア選手体力レベルに関する分析および体力基準作成、昨年度から提供を受けているU19男子日本代表の基礎体力について以下に概説する。

なお、体力科学委員会からの成果物として、ジャパンライジングスタープロジェクトにおける体力状況報告を当該委員会に提出した。内容は、1期から5期生体力測定の結果・体力評価報告、6期生選出のための体力基準値等であった。

(1) 国内体力測定実施・フィードバック事業

委員会内に設置された国内測定プロジェクトWGが味の素ナショナルトレーニングセンター（以下、ANTC）コーチ、指導普及本部の発掘委員会と連携し、国内選手の体力測定と体力基準・レベル作りをすすめた。

(2) ジャパンライジングスタープロジェクト（以下、JRSP）選抜測定会への協力

体力トレーニングへの協力

体力分析、結果検討および次年度内容策定および評価基準決定

2022年度JRSPにおける体力向上事業：

競技転向型のタレント選手（5期生）の体力向上事業は、専門測定会から検証合宿まで1年間にわたって実施された。対象が中学生年代の選手であったことから、ハンドボール基礎技術トレーニングと併行して体力トレーニング指導も実施され、本委員会専門測定員による体力測定会も開催された。同事業では、本協会と日本スポーツ振興センターが連携し、体力測定内容（選手選考内容）の検討、専門測定員による体力測定評価、結果検証、トレーニング活用が協議されていることも申し添える。

<J-Star 資料> J-Star プロジェクトに参加したU16選手の体力値（過去5年間）

	身長 cm	体重 kg	30m sec.	立幅跳 cm	J/H比	立投球(2号) m	イリノイ走 sec.	I/S比	コートシャトル sec.
1期生	162.04	53.69	5.00	209.71	1.29	25.33	17.70	3.54	67.64
2期生	166.00	52.75	4.52	217.60	1.31	26.50	16.75	3.71	63.43
3期生	165.24	56.20	4.73	217.00	1.31	23.00	17.62	3.73	65.38
4期生	169.50	58.50	4.34	230.00	1.36	24.23	16.75	3.86	61.33
5期生	166.65	55.60	4.62	221.00	1.33	24.40	16.85	3.65	60.25

<参考資料> 2019年度 ナショナルトレーニングアカデミー (NTA19) 選手

2022年度 ナショナルトレーニングシステムセンタートレーニング (NTS22) 選手

	身長 cm	体重 kg	30m sec.	立幅跳 cm	J/H比	立投球(2号) m	イリノイ走 sec.	I/S比	コートシャトル sec.
NTA19	168.20	ND	4.75	216.00	1.29	29.90	17.00	3.58	ND
NTSCT22	163.42	55.09	4.69	205.00	1.26	25.41	17.86	3.81	65.55

(3) NTS ブロック・センタートレーニング

体力測定 実施と集計

体力分析、結果検討および次年度内容策定および評価基準決定

2022年度NTSトレーニングでの体力測定と体力基準づくり：

本委員会ではこれまで指導・育成・普及委員会の NTS・NTA 担当と連携し、NTS全国ブロックトレーニング、NTSセンタートレーニング、NTA合宿トレーニング時に体力測定会を行ってきており、本委員会の中心的な実地事業となっていた。しかし今年度も、新型コロナウイルス感染症流行の影響もあってNTSブロックトレーニングが中止されたため、体力測定事業はセンタートレーニングのみとなった。選手選考には本委員会で作成された2017年～2021年までの蓄積データから算出された体力基準（資料参照）が活用された。またNTAの活動もオンライントレーニングに加えて集合型トレーニングが実施され、関係スタッフにより体力測定が実施された。近年、代替事業として実施されているNTSチャレンジトレーニング（全国トライアウト）では、選手の自己申告による体力データが得られるために、NTS委員会と本委員会が連携して提出されたデータの分析・評価を実施している。

<国内ジュニア選手のための体力基準値 男子ジュニア選手 2022年度版 n=1588>

U13 M	レベル	偏差値	身長	30m走	立幅跳	J/H比	立投球	イリノイ走	I/S比
	Lv 1	35	151.93	5.17	185.08	1.14	21.78	18.54	4.14
	Lv 2	40	156.16	5.00	195.12	1.20	24.42	18.06	3.98
	Lv 3	45	160.38	4.82	205.17	1.25	27.06	17.58	3.83
	Lv 4	50	164.61	4.65	215.22	1.31	29.70	17.10	3.67
	Lv 5	55	168.83	4.48	225.27	1.36	32.34	16.61	3.52
	Lv 6	60	173.05	4.31	235.32	1.42	34.98	16.13	3.36
	Lv 7	65	177.28	4.14	245.36	1.48	37.62	15.65	3.21
	Lv 8	70	181.50	3.96	255.41	1.53	40.26	15.17	3.05
	Lv 9	75	185.73	3.79	265.46	1.59	42.90	14.69	2.90
Lv 10	80	189.95	3.62	275.51	1.65	45.54	14.21	2.74	
U16 M	レベル	偏差値	身長	30m走	立幅跳	J/H比	立投球	イリノイ走	I/S比
	Lv 1	35	168.76	4.65	212.00	1.18	28.33	17.67	4.10
	Lv 2	40	171.58	4.54	221.08	1.24	30.95	17.24	4.00
	Lv 3	45	174.39	4.42	230.16	1.30	33.56	16.81	3.90
	Lv 4	50	177.21	4.31	239.24	1.35	36.18	16.38	3.81
	Lv 5	55	180.03	4.19	248.31	1.41	38.80	15.95	3.71
	Lv 6	60	182.84	4.08	257.39	1.46	41.41	15.53	3.62
	Lv 7	65	185.66	3.96	266.47	1.52	44.03	15.10	3.52
	Lv 8	70	188.48	3.85	275.55	1.58	46.65	14.67	3.43
	Lv 9	75	191.29	3.73	284.62	1.63	49.26	14.24	3.33
Lv 10	80	194.11	3.61	293.70	1.69	51.88	13.81	3.23	

U13 W	レベル	偏差値	身長	30m走	立幅跳	J/H比	立投球	イリノイ走	I/S比
	Lv 1	35	150.14	5.37	172.30	1.09	17.21	19.38	3.94
	Lv 2	40	152.93	5.22	179.44	1.13	18.91	18.94	3.85
	Lv 3	45	155.72	5.07	186.57	1.18	20.62	18.50	3.77
	Lv 4	50	158.52	4.91	193.70	1.22	22.33	18.06	3.68
	Lv 5	55	161.31	4.76	200.84	1.27	24.03	17.62	3.60
	Lv 6	60	164.10	4.61	207.97	1.31	25.74	17.17	3.51
	Lv 7	65	166.90	4.46	215.11	1.36	27.44	16.73	3.43
	Lv 8	70	169.69	4.30	222.24	1.40	29.15	16.29	3.34
	Lv 9	75	172.48	4.15	229.38	1.45	30.85	15.85	3.26
Lv 10	80	175.28	4.00	236.51	1.49	32.56	15.41	3.17	
U16 W	レベル	偏差値	身長	30m走	立幅跳	J/H比	立投球	イリノイ走	I/S比
	Lv 1	35	155.04	5.32	168.84	1.03	19.49	19.43	4.01
	Lv 2	40	157.74	5.15	178.18	1.09	21.36	18.89	3.90
	Lv 3	45	160.44	4.99	187.53	1.15	23.24	18.35	3.80
	Lv 4	50	163.14	4.82	196.87	1.21	25.12	17.81	3.70
	Lv 5	55	165.85	4.66	206.22	1.27	27.00	17.27	3.60
	Lv 6	60	168.55	4.49	215.57	1.33	28.87	16.73	3.50
	Lv 7	65	171.25	4.33	224.91	1.39	30.75	16.20	3.40
	Lv 8	70	173.95	4.16	234.26	1.45	32.63	15.66	3.29
	Lv 9	75	176.66	3.99	243.61	1.51	34.50	15.12	3.19
Lv 10	80	179.36	3.83	252.95	1.56	36.38	14.58	3.09	

(4) U19男子代表チームの基礎体力測定

体力測定結果の集計、体力分析

本委員会は、U-19男子代表HCの芳村優太氏より、2021年12月からの同チーム体力データの提供を受けている。2022年度に実施されたU19男子代表選手の基礎体力測定データを以下に示した。評価対照基準値は“国内ジュニア選手のための体力基準値 男子ジュニア選手U16 2022年度版”であった。体力レベルでは身長が最も高く、U16基準でレベル6-7（偏差値60-65）であった。スプリント能力、ジャンプ能力、投能力、アジリティ能力については、全てにおいてレベル5-6（偏差値55-60）の範囲にあった。

〈2022年度に実施されたU19男子日本代表の基礎体力値〉

U19 代表	身長	30m走	立幅跳	J/H比	立投球	イリノイ走	I/S比
	184.50	4.16	256.50	1.39	39.27	15.72	3.78
	Lv 6-7	Lv 5-6	Lv 5-6	Lv 4-5	Lv 5-6	Lv 5-6	Lv 4-5

*Lvは、「国内ジュニア選手のための体力基準値 男子ジュニア選手 2022年度版」

(5) 海外体力分析評価事業

委員会内に設置された「海外分析プロジェクト」チームによって、主に欧州プレーヤーをターゲットにした体力分析（形態・基礎体力・その他特異的体力など）が行われている。その方法は、各国・各競技団体・各チーム・研究者から公に報告された文書・データ、または提供を受けた文書・データをレビューし、纏めていくものである。2021年度の報告では、2019年、2021年の男子世界選手権および2021年に開催された2020東京オリンピックにおける公式記録から、身長・体重等の形態データを抽出し、海外選手と国内代表選手の相違点を検討した（強化本部へ提出済み）。2022年度は、前年報告に2023年1月に実施された第28回男子世界選手権のデータを加味して分析中である。海外分析プロジェクトからの報告は2023年度上半期中に強化本部へ提出予定である。

8) 医事活動 (医事委員会)

(1) 定例委員会 (2回/年以上)

メディカルサポート委員会会議 5月19日(木) 実施(オンライン) 18名参加
日本リーグでのドクター配置について検討した。

- ① アンチドーピングの在り方について確認した。
- ② 新型コロナウイルス感染対策について情報を共有した。
- ③ 各カテゴリー代表チームの大会参加時のドクター帯同について検討した。
- ④ JHAホームページに脳震盪や外傷障害の広報工夫拡充について議論した。

(2) メディカルサポート委員会会議 2月27日(月) 実施(オンライン) 11名参加

- ① 女子日本代表のアジア選手権、男子日本代表のスイス遠征について報告し、情報を共有した。
- ② 今後の医薬品の取り扱いについて確認した。
- ③ 正会員・準会員などによる構成員の広域化、多様性化の検討を行った。
- ④ 海外並びに国内帯同ドクターの帯同報告ならびに当該年度のドクター選定を行った。また、WADA codeの規程改定の確認を行った。

(3) 帯同ドクターの派遣

- ① 男女日本代表、男子U-21、U-19、女子U-20チームにおける国内および海外遠征にドクターを派遣した。
(アンチドーピング研修実施)

男子代表

- ・第1回強化合宿 4月1日～4月17日 (NTC)
- ・第2回強化合宿 8月26日～9月2日 (NTC)
- ・日韓定期戦 9月4日(愛知県)、9月7日(韓国)
- ・第3回強化合宿 12月27日～1月2日 (NTC)
- ・第1回欧州遠征 1月2日～1月10日 (スイス)

女子代表

- ・第1回強化合宿 4月10日～4月22日 (NTC)
- ・第3回強化合宿 5月16日～6月4日 (徳島県・大阪府・福井県・石川県)
- ・日韓定期戦 9月4日(愛知県)、9月7日(韓国)
- ・第5回強化合宿 11月8日～11月21日 (石川県・NTC)
- ・女子アジア選手権 11月21日～12月4日 (韓国)

男子U-21

- ・第1回強化合宿 5月24日～5月27日 (神奈川県)
- ・第3回強化合宿 7月10日～7月12日 (NTC)
- ・アジア選手権 7月12日～7月24日 (バーレーン)

男子U-19

- ・第1回強化合宿 6月27日～6月30日 (NTC)
- ・アジア選手権 8月20日～8月31日 (バーレーン)

女子U-20

- ・アンチドーピング研修 5月23日 (オンライン)
- ・世界選手権 6月17日～7月3日 (スロベニア)

男女日韓定期戦、全日本ビーチ、日本選手権、日本リーグプレーオフの会場にドクターを派遣した。

- ・日韓定期戦 9月4日(愛知県)
- ・全日本ビーチ 10月15日～10月16日 (神奈川県)
- ・男子日本選手権 12月7日～12月11日 (山口県)
- ・女子日本選手権 1月5日～1月9日 (鹿児島県)
- ・プレーオフ 3月17日、3月19日(東京都)、3月21日(愛知県)

J-STARの事業にドクターを派遣

J-STAR

- ・検証合宿1 6月 24日 ～ 6月 26日 (宮城県 仙台大学)
- ・検証合宿2 8月 22日 ～ 8月 25日 (千葉県 東京理科大学)
- ・検証合宿3 10月 14日 ～ 10月16日 (東京都 NTC)
- ・検証合宿4 11月 18日 ～ 11月20日 (福岡県 福岡大学)
- ・検証合宿5 12月 2日 ～ 12月 4日 (愛知県 中京大学)
- ・検証合宿6 12月 26日 ～ 12月29日 (千葉県 東京理科大学)
- ・専門測定会 2月 24日 ～ 2月 26日 (愛知県 中部大学)

(4) メディカルチェック事業各カテゴリー代表チームに帯同したドクターによるメディカルチェックを適宜実施した。

①NTCでの合宿やオンラインにて管理栄養士による栄養指導を実施した。NTC外での合宿については、管理栄養された食事メニューを提供し、食育活動を行った。

②公益財団法人日本スポーツ協会の公認資格「スポーツドクター」の受講者推薦を行った。

③NTS発掘育成事業にドクターを派遣した。(アンチドーピング研修実施)

④安全管理

(5) JHAホームページに、脳震盪を中心とした頭部外傷への対応について掲載し、コンテンツを充実させた。

(6) 新型コロナウイルス感染対策に関して、年間を通して随時メディカルサポート委員会内で会議、助言を行った。

9) トレーナーの活動(トレーナー専門委員会)

(1) 定例委員会(年1回)

トレーナー専門委員会ブロック会議 6月11日(土)実施(オンライン) 11名参加

(2) トレーナーブロック委員による昨年度の年間活動報告と活動計画を策定・実行した。

(3) 日本リーグの安全対策として、リーグ開催ホームチームのドクター配置、担架やAED設置場所の確認など、ガイドラインの策定・改訂を行った。

(4) JSP0公認アスレティックトレーナー(以下、JSP0-AT)の受講者推薦やATの役割、活動、今後の運用について、関係者にて打合せを実施した。

(5) トレーナー研修制度の実施運用について、委員会内にて意見交換を行った。

(6) 新会員登録システム「MYHANDBALL」による会員名簿のデジタル管理化に向け、関係者による打合せを実施した。

(7) トレーナー専門委員会総会 1月21日(土)実施(オンライン) 約200名参加

- ・トレーナー専門委員会活動の概要説明
- ・ドーピングコントロールの最新情報と安全対策について
- ・全日本インカレ活動報告
- ・ハンドボールにおける肩関節傷害と予防・強化について
- ・男女日本代表の活動について

(8) トレーナー派遣等

男女日本代表、男子U-21、U-19、女子U-20チームにおける国内および海外遠征にトレーナーを帯同させ、連携を図った。

男子代表

- ・第1回強化合宿 4月1日～4月17日 (NTC)
- ・第2回強化合宿 8月26日～9月2日 (NTC)
- ・日韓定期戦 9月4日(愛知県)、9月7日(韓国)
- ・第3回強化合宿 12月27日～1月2日 (NTC)
- ・第1回欧州遠征 1月2日～1月10日 (スイス)

女子代表

- ・第1回強化合宿 4月10日～4月22日 (NTC)
- ・第2回強化合宿 4月30日～5月8日 (大分県)
- ・第3回強化合宿 5月16日～6月4日 (徳島県・大阪府・福井県・石川県)
- ・第4回強化合宿 8月22日～8月31日 (北海道・鹿児島県)
9月9日～9月18日 (熊本県・広島県)
- ・日韓定期戦 9月4日 (愛知県)、9月7日 (韓国)
- ・第5回強化合宿 11月8日～11月21日 (石川県・NTC)
- ・女子アジア選手権 11月21日～12月4日 (韓国)

男子U-21

- ・第1回強化合宿 5月24日～5月27日 (神奈川県)
- ・第2回強化合宿 6月14日～6月18日 (東京都・埼玉県)
- ・第3回強化合宿 7月10日～7月12日 (NTC)
- ・アジア選手権 7月12日～7月24日 (バーレーン)

男子U-19

- ・第1回オンライン合宿 4月16日, 17日, 23日, 24日 (オンライン)
- ・第1回強化合宿 6月27日～6月30日 (NTC)
- ・第2回オンライン合宿 7月9日, 10日, 16日, 17日 (オンライン)
- ・第2回強化合宿 8月11日～8月14日 (NTC) ドクターなし
- ・アジア選手権 8月20日～8月31日 (バーレーン)
- ・第3回オンライン合宿 2月11日, 19日, 3月18日, 19日 (オンライン)

女子U-20

- ・アンチドーピング研修 5月23日 (オンライン)
- ・第1回強化合宿 6月11日～6月17日 (石川県)
- ・世界選手権 6月17日～7月3日 (スロベニア)

(9) NTS・NTA・J-STARの事業にトレーナーを派遣した。

NTS

- ・NTSセンタートレーニング 1月6日～1月8日 (愛知県・中部大学)

NTA

- ・第1回リモートトレーニング 5月30日 (Web開催)
- ・第2回リモートトレーニング 6月20日 (Web開催)
- ・第3回リモートトレーニング 9月5日 (Web開催)
- ・第4回リモートトレーニング 10月3日 (Web開催)
- ・第5回リモートトレーニング 11月7日 (Web開催)
- ・第6回リモートトレーニング 12月5日 (Web開催)
- ・第7回リモートトレーニング 2月6日 (Web開催)
- ・第8回リモートトレーニング 3月6日 (Web開催)
- ・第1回育成合宿 8月11日～8月13日 (東京都・味の素NTC)
- ・第2回育成合宿 中止
- ・第3回育成合宿 2月10日～2月13日 (東京都・味の素NTC)
- ・NTAエキシビジョンマッチ 2月13日 (埼玉県・和光市総合体育館)

J-STAR

- ・検証合宿1 6月24日～6月26日 (宮城県 仙台大学)
- ・検証合宿2 8月22日～8月25日 (千葉県 東京理科大学)
- ・検証合宿3 10月14日～10月16日 (東京都 NTC)
- ・検証合宿4 11月18日～11月20日 (福岡県 福岡大学)
- ・検証合宿5 12月2日～12月4日 (愛知県 中京大学)

- ・検証合宿6 12月26日～12月29日（千葉県 東京理科大学）
- ・専門測定会 2月24日～2月26日（愛知県 中部大学）

(10) 全日本学生選手権トレーナーブース設置

11月3日より開催された全日本学生選手権大会において、トレーナーブースを設置し、会場の安全策や選手、スタッフ、審判へのメディカルサポートを実施した。

2. 指導・普及事業

<発掘部>

《NTS委員会》

(1) ナショナルトレーニングシステム（NTS）

実施時期	概要	場所
4月24日	第1回運営会議	Web会議
7月29日	指導内容策定会議	Web会議
11月27日	第2回運営会議	Web会議
11月24日～ 1月31日	チャレンジトレーニング（U-16） 合計90名 U-16男子 49名 U-16女子 41名	Web
1月6日 ～8日	センタートレーニング（U-15） 合計78名 スタッフ26名 U-15男子 28名 U-15女子 24名	中部大学
3月10日 ～4月28日	チャレンジトレーニング（U-13） 合計110名 U-13男子 70名 U-13女子 40名	

《アカデミー委員会》

(1) ナショナルトレーニングアカデミー（NTA）リモートトレーニング

実施時期	概要	場所
5/30	第1回リモートトレーニング NTAとは・食育・基礎TR・戦術指導	Web
6/20	第2回リモートトレーニング メンタルトレーニング（第1回JOC連携）	Web
9/5	第3回リモートトレーニング アスリート講話 オリンピアン	Web
10/3	第4回リモートトレーニング メンタルトレーニング（第2回JOC連携）	Web
11/7	第5回リモートトレーニング 食育・基礎TR・DF戦術指導・GK指導	Web
12/5	第6回リモートトレーニング メンタルトレーニング（第3回JOC連携）	Web
2/6	第7回リモートトレーニング 食育・基礎TR・DFOF戦術指導・GK指導	Web
3/6	第8回リモートトレーニング 食育・基礎TR・アスリート講話	Web

(2) ナショナルトレーニングアカデミー（NTA）育成合宿

実施時期	概要	場所
6/26	選考合宿 場所：中部大学	Web
8/11～13	第1回育成合宿 場所：ナショナルトレーニングセンター	Web
2/10～11	第2回育成合宿 場所：ナショナルトレーニングセンター	Web

(3) U-16エキシビジョンマッチ

2/12 場所：和光市総合体育館 男子 vs 浦和学院高 女子 vs 埼玉栄高

《キャラバン委員会》

(1) ナショナルトレーニングキャラバン（NCa）

コロナ禍により活動実績なし

《J-STAR 専門委員会》

ジャパン・ライジング・スタープロジェクト (J-STARプロジェクト)

(1) 実行委員会

実施時期	概要	場所
4/12	第 1 回実行委員会 委員/参加者人数 7 名、事務局 1 名	Web 会議
5/10	第 2 回実行委員会 委員/参加者人数 7 名、事務局 1 名	Web 会議
6/14	第 3 回実行委員会 委員/参加者人数 5 名、事務局 1 名	Web 会議
7/12	第 4 回実行委員会 委員/参加者人数 6 名、事務局 1 名	Web 会議
8/9	第 5 回実行委員会 委員/参加者人数 8 名、事務局 1 名	Web 会議
9/13	第 6 回実行委員会 委員/参加者人数 7 名、事務局 1 名	Web 会議
10/11	第 7 回実行委員会 委員/参加者人数 6 名、事務局 1 名	Web 会議
11/19	第 8 回実行委員会 委員/参加者人数 6 名、事務局 1 名	Web 会議
12/13	第 9 回実行委員会 委員/参加者人数 8 名、事務局 1 名	Web 会議
1/10	第 10 回実行委員会 委員/参加者人数 9 名、事務局 1 名	Web 会議
2/14	第 11 回実行委員会 委員/参加者人数 6 名、事務局 1 名	Web 会議
3/14	第 12 回実行委員会 委員/参加者人数 7 名、事務局 1 名	Web 会議

(2) 合宿

- ① 検証合宿 1 令和 4 年 6 月 24 日 (金) ~ 6 月 26 日 (日) 於 : 仙台大
スタッフ 12 名、選手 5 名
- ② 検証合宿 2 令和 4 年 8 月 22 日 (月) ~ 8 月 25 日 (木) 於 : 東京理科大学
スタッフ 11 名、選手 5 名
- ③ 検証合宿 3 令和 4 年 10 月 14 日 (金) ~ 10 月 16 日 (日) 於 : ANTC
スタッフ 14 名、選手 5 名
- ④ 検証合宿 4 令和 4 年 11 月 18 日 (金) ~ 11 月 20 日 (日) 於 : 福岡大学
スタッフ 14 名、選手 4 名
- ⑤ 検証合宿 5 令和 4 年 12 月 2 日 (金) ~ 12 月 4 日 (日) 於 : 中京大学
スタッフ 15 名、選手 3 名
- ⑥ 検証合宿 6 令和 4 年 12 月 26 日 (月) ~ 12 月 29 日 (日) 於 : 東京理科大学
スタッフ 15 名、選手 4 名

(3) リモートトレーニング

1. 5 月 1 日 (日) 14:00~15:00 スタッフ 2 名、選手 6 名
2. 5 月 16 日 (月) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 6 名
3. 6 月 12 日 (日) 14:00~15:00 スタッフ 2 名、選手 6 名
4. 6 月 27 日 (月) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 6 名
5. 7 月 11 日 (月) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 6 名
6. 7 月 24 日 (日) 14:00~15:00 スタッフ 2 名、選手 6 名
7. 8 月 8 日 (月) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 6 名
8. 8 月 29 日 (月) 19:30~20:30 スタッフ 2 名、選手 6 名
9. 9 月 12 日 (月) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 5 名
10. 9 月 26 日 (月) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 5 名
11. 10 月 10 日 (月) 中止
12. 10 月 23 日 (日) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 5 名
13. 11 月 7 日 (月) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 4 名
14. 11 月 28 日 (月) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 4 名
15. 12 月 12 日 (月) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 4 名
16. 12 月 19 日 (月) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 4 名
17. 1 月 16 日 (月) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 4 名
18. 1 月 23 日 (月) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 4 名
19. 2 月 6 日 (月) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 4 名
20. 2 月 27 日 (月) 20:00~21:00 スタッフ 2 名、選手 4 名

<指導部>

《指導委員会》

(1) 指導者組織・資格関連

①公認コーチ養成講習会専門科目講習会

コーチ3

期日:6月25日~26日 場所:中京大学 受講者:33名 スタッフ:11名

期日:2月18日~19日 場所:東京理科大学 受講者:52名 スタッフ:13名

専門科目合格者 85名

スタートコーチ

期日:6月11日~12月11日 場所:全国27会場 総受講者:468名

②公認コーチ養成講習会免除適応コース専門科目検定試験

期日:2月11日~12日 場所:大阪体育大学 受講者:35名 スタッフ4名

③指導委員会全国会議および研修会 (JSP0 指導者資格更新研修)

期日:2月27日 場所:Web会議 受講者:33名

(2) テクニカル・情報発信関連

①ハンドボール大事典作成 全国で活動している有効資格者に配布

<普及部>

《学校体育専門委員会》

(1) 第1回学校体育専門委員会

期日:11月14日 場所:愛知県刈谷市

(2) 第24回ハンドボール研究集会

期日:11月14日~15日 場所:愛知県刈谷市, 名古屋市

オンライン参加者:35名

《マスターズ専門委員会》

(1) 2020 第1回マスターズ専門委員会 期日:3月5日 場所:塩山体育館会議室

(2) 第6回全日本シニアマスターズ大会 (シニア大会)

期日:12月17日~18日 場所:愛媛県松山市 参加者:143名

(3) 第30回全日本マスターズ大会 (交流型 順位決定型 11人制大会)

期日:8月5日~7日 場所:愛知県豊田市 参加者:775名

(4) 2020 第2回マスターズ専門委員会

<育成部>

《小学生専門委員会》

- | | | |
|---------------|------------|------------|
| ・第1回小学生専門委員会 | 期日:4月10日 | Web会議 |
| ・第2回小学生専門委員会 | 期日:6月12日 | Web会議 |
| ・第3回小学生専門委員会 | 期日:8月3日 | Web会議&集合会議 |
| ・第4回小学生専門委員会 | 期日:8月28日 | Web会議 |
| ・第5回小学生専門委員会 | 期日:10月30日 | Web会議 |
| ・第6回小学生専門委員会 | 期日:1月21日 | Web会議 |
| ・第7回小学生専門委員会 | 期日:3月19日 | Web会議 |
| ・第33回全国小学生大会 | 期日:8月4日~7日 | 京都府京田辺市 |
| ・全国U-12指導者研修会 | 期日:11月13日 | Web会議 |
| ・小学生インテグリティ研修 | 期日:10月16日 | Web研修 |

《中学生専門委員会》

- | | | |
|-----------------------|---------------|----------|
| ・第1回中学生委員会 | 期日:8月17日 | 北海道函館市 |
| ・第2回中学生委員会 | 期日:12月24日 | 徳島県徳島市 |
| ・第3回中学生委員会 | 期日:3月26日 | 富山県氷見市 |
| ・第1回中学生専門委員会クラブ部会 | 期日:8月4日 | 埼玉県さいたま市 |
| ・第13回全国中学生クラブカップ 2022 | 期日:8月4日~7日 | 埼玉県さいたま市 |
| ・第51回全国中学校大会 | 期日:8月22日~25日 | 北海道函館市 |
| ・第31回JOCジュニアオリンピックカップ | 期日:12月24日~28日 | 徳島県徳島市 |

3. 競技運営に関する事業（競技本部、大会運営委員会）

（総括）

2022年度はコロナ禍の中ではあったが、計画された大会がすべて実施された。競技・大会運営も大きな事故なく、審判本部、事務局、連盟、各都道府県協会の協力を得て実施できた。

しかしながら登録者数の減少など、今後の協会運営、大会運営にも課題が出てきており、これらの解決のために、競技本部として、魅力ある大会の運営や改革、また新設も今後検討していくことが喫緊の課題であると思われる。競技本部としてはオリンピック予選を円滑に実施し、このことを契機に国内での競技人口を増やせるように2023年度も、他部門、連盟、各都道府県協会の協力を得ながら、大会運営、競技運を行っていく。

（1）国内で開催された主要大会の管理・運営・協力（斜体は国際大会）

月	大会名	開催日程	開催地	結果
6月	高松宮記念杯第10回全日本社会人選手権大会	6/21～ 6/25	福井県・福井市、あわら市	【男子】1：豊田合成 2：大同特殊鋼、3：大崎電気 【女子】1：北國銀行 2：オムロン 3：ソニー
7月	第42回全国クラブ選手権大会・西地区大会	7/2～ 7/3	長崎県佐世保市	【男子】1：HC サンワード、2：丸松建設、3：G. Family 【女子】1：HC 鹿児島、2：レキオクラブ 3：HC 宮崎
	高松宮記念杯第73回全日本高校選手権大会	7/30-8/4	愛媛県・松山市、伊予市	【男子】1：大体大浪商高 2：北陸高 3：香川中央高、駿台甲府高 【女子】1：昭和学院高 2：名古屋経済大市邨高、3：白梅学園高、小松市立高
8月	第35回全国小学生大会	8/4-7	京都府・京田辺市他	【男子】1：松井ヶ丘ハンドボールクラブ、2：T-SQUARE 京都、3：東海ハンドボールスクール、四街道サンダーズハンドボールクラブ 【女子】1：T-SQUARE 京都 2：花園ハンドボールクラブ 3：HC 春吉 Jr.、ヴィアティン三重ハンドボールクラブ
	第29回全日本マスターズ大会（交流型、順位決定型11人制）	8/5-7	愛知県・豊田市	【11人制】 1：横浜平沼マスターズ、ミュンヘン、SHONAN SEAGULLS 【順位決定型】男子 1：大阪330 2：小金クラブ 女子1：MLN 沖縄 2：梅の家
	全国中学生クラブチームカップ2022	8/5-7	埼玉県・さいたま市	【男子】1：霧島クラブ 2：クラウドセブン 3：HC Lever、大崎ジュニアクラブ 【女子】1：大阪ジュニアクラブ、2：大崎ジュニアクラブ、3：ヴィアティン三重ハンドボールクラブ、渋川フェニックス
	第27回ジャパンオープントーナメント	8/10-13	鹿児島県・鹿児島市、始良市、霧島市	【男子】1：FOG 2：HONDA 3：Regulus Osaka 【女子】1：山口銀行 YMGUTS 2：オレンジクラブ 3：REDS
	第51回全国中学校大会	8/19-21	北海道・函館市	【男子】1：浦添市立神森中 2：川崎市立西中原中 3：粕屋町立粕屋中、東久留米市立西中 【女子】1：東久留米市立西中、2：高石市立高南中、3：氷見市立十三中、宇土市立鶴城中

9月	第49回全国高等専門学校選手権大会	9/3-4	高知県・高知市	1:豊田工業高専 2:香川工業高専 3:高知工業高専、宇部工業高専
	日韓定期戦2022	9/4・7	愛知県、仁川市	【ホーム】男子:日本25-19韓国 女子:日本19-25韓国 【アウェイ】男子:韓国33-23日本 女子:韓国23-19日本
	文部科学大臣杯第20回日本車椅子競技大会	9/18-19	宮城県・仙台市	1:大阪体育大学 APES-A 2:すわつ ちゃ〜ず 3:大阪 NRF
10月	第77回国民体育大会	10/6-10	栃木県・栃木市 他	【成年男子】1:埼玉県 2:愛知県 3:佐賀県 【成年女子】1:石川県 2:広島県 3:熊本県 【少年男子】1:福井県 2:大阪府 3:香川県 【少年女子】1:京都府 2:東京都 3:愛知県
	第24回全日本ビーチハンドボール選手権大会	10/15-16	神奈川県・三浦市	【男子】1:熱砂 2:BBJ 3:シー スター東海 【女子】1:Thetis 東京 2:SWAG 3:KUNOICHI
11月	高松宮記念杯男子第65回女子第58回全日本学生選手権	11/3-7	愛知県・豊田市 他	【男子】1:中央大学、2:日本体育 大学、3:大同大学、名城大学 【女子】1:大阪体育大学、2:東海 大学 3:筑波大学、東京女子体育 大学
12月	第74回日本選手権大会(男子の部)	12/7-11	山口県・周南市	1:豊田合成、2:トヨタ自動車東 日本、3:ジークスター東京、大同 特殊鋼
	第6回全日本マスターズシニア大会	12/17-18	愛媛県・松山市	順位決定は行わず、交流戦を実施 した
	第31回JOCジュニアオリンピックカップ	12/25-28	徳島県・徳島市 他	【男子】1:東京都選抜、2:京都府 選抜、3:富山県選抜、沖縄県選抜 【女子】1:大阪府選抜、2:東京都 選抜、3:富山県選抜、熊本県選抜
1月	第74回日本選手権大会(女子の部)	1/5-9	鹿児島県・鹿児島市	1:北國銀行、2:ソニー、3:イズ ミ、オムロン
2月	全日本社会人チャレンジ2022	2/10-12	福井県・永平寺町	1:HC山口、2:ブレスド名古屋 3:トヨタ自動車
3月	第46回日本リーグプレーオフ	3/17・ 19・21	東京都・調布市 愛知県・稲沢市	男子1:豊田合成 2:トヨタ車 体 3:ジークスター東京 女子1:北國銀行 2:ソニー 3:オムロン
	第46回全国高等学校選抜大会 Presented by MIZUNO	3/24-29	男子:三重県・津市 女子:岐阜県・岐阜市	【男子】1:北陸高 2:藤代紫水高 3:小松工業高、香川中高高 【女子】1:白梅学園高 2:校成学 園女子高 3:昭和学院高、高松商 業高
	第18回春の全国中学生選手権大会	3/26-29	富山県・氷見市 ふれあいスポー ツセンター他	【男子】1:大体大浪商中 2:矢巾 町立矢巾中 3:岩国市立岩国中、 富岡市立南中 【女子】1:東久留米市立西中 2: 宇土市立鶴城中 3:京田辺市立大 住中、明石市立望海中

その他事業

- (2) 国際大会競技役員 (ITO) の養成のための IHF・AHF へのアプローチ支援及び各カテゴリー、全国・地域別の各大会における円滑な競技運営のための競技役員養成については、審判部作成の2023年9月施行の審判等登録規程において、テクニカルオフィシャルも資格化されることとなり、審判本部と協力し、継続して人材育成等に努めていく。

- ①国際審判員、T0のAHF大会は随時、ノミネートがあれば派遣。その他コロナの状況を考慮しながら、役員養成、養成のためのIHFメンバーの招聘を検討したが、2022年度は実施にいたらなかったが、審判部として、2023年度に招聘予定の審判研修会においてT0研修実施も要請したい。
- ②G R T P経費の確保は2022年度から3年間、助成金並びにコロナ収束を待って、開催誘致を試みる。
- ③大会誘致・運営マニュアルを6月理事会までに作成し提案することについては、2022年度も作成に至らなかった。しかしながら、2024パリオリンピック女子アジア予選の誘致を行い、日本・広島での開催が決定したことから、この予選をレガシーとして大会運営マニュアルなど作成していく。

(3) 新登録システム支援、競技記録電算化システム支援（継続）

- ①新システムにおける大会結果入力システムの普及支援（年間、大会毎）
- ②4月年度初めから、6月まで協会役員登録、審判登録など連携して、登録者の派遣と未登録者の促進を6月まで実施。（4月）
上記については、上村常務に主に対応いただいた。
- ③用具検定規程を含む、競技関係の規程・細則・通知など見直し（継続）

(4) 検定協議会開催（7月まで）※ただしコロナの状況による。

2022年度も実施できなかった。コロナの5類引き下げに伴い、2023年度は対面での実施を計画する。

(5) 登録規程の見直しは6月理事会にて提案についても、2023年度に持ち越し、継続して計画する。

海外移籍等フローと問い合わせ窓口の公開については、国際担当の協力を仰ぎ、フローを公開している。

特別指定強化選手制度の協議をJHLから提案を受け、事務局に提案したが、進められていない。今後とも強化本部と連携し、協議を進めていきたい。

(6) ユニホーム広告規程の見直し（6月理事会に提案）についても、見直し提案に至っていない。2023年も継続して、マーケティング本部と協議しながら進めていく。

(7) 競技日程（スケジュール）委員会と大会運営委員会を中心とした他部門との連携を行った。

- ①競技運営連絡協議会を大会運営委員会として名称変更して実施し、スケジュール調整、大会の課題を協議している。2023年度も継続する。また、国体改革委員会も実施し、2025年の改革実施に向けて、常務理事会、理事会に上申する。
- ②JAPAN CUP及び日韓戦など主催事業の次年度日程調整は毎年度4月から協議し、10月理事会に報告、助成金申請などを経て、次年度予算に計上することについては、2022年度は2023年度開催のパリオリンピック予選の誘致、大会実施に向けて、協会を挙げて取り組んでいる。

4. 審判に関する事業

1) 主な事業 ※ 表内塗りつぶし箇所は残事業 (敬称略)

開催日・期間	事業名	委員会等	開催地	概要および実績
4月24日	第1回審判専門委員会合同会	審	リモート	<出席者>競技本部長、審判本部長、各専門委員会委員長、ブロック審判長、連盟審判長、審判総務委員 他 内容/年度内事業の確認
4月25～30日	第8回アジア女子ビーチハンドボール選手権、第2回アジア女子ユースビーチハンドボール選手権	★	タイ・バンコク	TD派遣
4月23日 24日 5月15日、 22日 9月25日	東地区A級審査会	査	埼玉県	受験者 15名 審査員 2名
5月3日 ～5日	レフェリーアカデミー (@中四国学生春季リーグ戦)	ア	広島県	受講者 7名 指導者 5名

5月13日 ～15日	北信越ブロックB級審査会	査	福井県	受験者 10名 審査員 2名
5月14日 15日 10月22日	中地区A級審査会	査	京都府 大阪府 兵庫県	受験者 25名 審査員 2名
5月22日	北海道ブロックB級審査会	査	北海道	受験者 3名 審査員 2名
5月25日	第1回競技規則研究専門委員会	ル	リモート	<出席者>競技本部長、審判本部長、 競技規則研究専門委員会 内容/新競技規則に関する確認
5月15日 6月25日 ～26日	関東ブロックB級審査会	査	埼玉県 東京都	受験者 20名 審査員 6名
6月 4日5日 25日26日	東海ブロックB級審査会	査	三重県 東京都	受験者 17名 審査員 3名
6月18日	第1回全日本大会派遣委員 連絡会	ル 指	リモート	<出席者>競技本部長、審判本部長、 各門委員会委員長（競技規則研究・審 判指導）、連盟審判長、各サポートス タッフ 内容/全日本大会派遣についての打ち 合わせ
6月18日 19日	東北ブロックAB級審査会	査	福島県	受験者 A級 2名 B級 7名 審査員 2名
6月22日 ～30日	第24回男子クラブリーグア ジア選手権	★	インド ハゲラハート	レフェリー派遣
7月2日 10月22日	近畿ブロックB級審査会	査	大阪府 兵庫県	受験者 15名 審査員 4名
7月2日 ～3日	九州ブロックB級審査会	査	長崎県	受験者 17名 審査員 2名
7月15日 ～24日	第17回男子ジュニアアジア 選手権	★	バーレーン マナーマ	TD派遣
7月16日	第2回全日本大会派遣委員連 絡会 (競技規則研究専門委員会)	ル	リモート	<出席者>競技本部長、審判本部長、 競技規則研究専門委員会（委員長、連 盟派遣委員、サポートスタッフ） 内容/全日本大会派遣に関する内容共 有について
7月18日	第2回全日本大会派遣委員連 絡会 (審判指導専門委員会)	指	リモート	<出席者>競技本部長、審判本部長、 審判指導専門委員会（委員長、連盟派 遣委員、サポートスタッフ） 内容/全日本大会派遣に関する内容共 有について
7月29日 ～31日	競技規則研究委員・審判指 導委員派遣 (全国高校総体)	ル 指	愛媛県	競技規則研究委員派遣 審判指導委員派遣
7月20日～ 8月10日	第9回女子ユース世界選手権	★	北マケドニア ・スコピエ	レフェリー派遣
8月3日 ～5日	競技規則研究委員・審判指 導委員派遣（全国小学生）	ル 指	京都府	競技規則研究委員派遣 審判指導委員派遣

8月4日 ～7日	レフェリーアカデミー (@全国中学生クラブカップ)	ア	埼玉県	受講者 8名 (うち1名はノミネート により参加) 指導者 2名
8月18日 ～20日	競技規則研究委員・審判指 導委員派遣 (全国中学校大会)	ル 指	北海道	競技規則研究委員派遣 審判指導委員派遣派遣
9月3日 ～4日	中四国ブロックAB級審査会	査	山口県	受験者 A級 6名 B級 11名 審査員 4名
9月4日	日韓定期戦2022 (ホーム戦)	★	愛知県 豊田市	MO TD レフェリー派遣
9月23日 ～25日	西地区A級審査会	査	沖縄県	受験者 11名 審査員 3名
10月14日 ～16日	レフェリーアカデミー (@サニックスカップ)	ア	埼玉県	受講者 7名 指導者 5名
11月2日 ～4日	競技規則研究委員・審判指 導委員派遣 (全日本学生)	ル 指	愛知県	競技規則研究委員派遣 審判指導委員派遣
11月2日 ～4日	審判本部長視察 (全日本学生)	審	愛知県	審判本部長
11月24日 ～12月4日	第19回女子アジア選手権 (兼GRTPコース)	★	韓国 仁川、ソウル	TD レフェリー派遣
12月9日 ～11日	レフェリーアカデミー (@日本選手権 男子の部)	ア	埼玉県	受講者 6名 (うち2名はノミネートにより参加) 指導者 7名
12月10日 ～11日	本部長ヒアリング	審	山口県	出席者：競技・審判本部長、各専門委 員会委員長、各サポートスタッフ 内容／各専門委員会活動内容およびR5 年度に向けた活動内容に関するヒア リング、合同委員会議題確認、ワーキン ググループ会議
12月11日	第2回審判専門委員会合同 会	審	山口県	出席者：審判本部長、各専門委員会委 員長、各サポートスタッフ 内容／合同委員会議題確認
12月25日 ～27日	審判本部長視察 (JOCジュニアオリンピックカップ)	審	徳島県	審判本部長
1月6日 ～9日	レフェリーアカデミー (@日本選手権 女子の部)	ア	鹿児島県	受講者 7名 指導者 6名
1月15日	第3回審判専門委員会合同 会	審	リモート	競技本部長、審判本部長、各専門委員 会委員長 他 内容／審判合同会議に向けての打ち合 わせ
1月30日	審判本部合同委員会	審	リモート	競技・審判本部長・各専門委員会委員 長・ブロック審判長・連盟審判長・審 判総務委員 他
3月8日 ～21日	第9回アジアビーチハンドボ ール選手権 (男女)	★	インドネシア バリ	TD派遣
3月12日	全国審判長会議	審	リモート	新規程に関する説明会 関係書類の提示

5. 広報に関する事業

(1) 記者会見

- ・ 4/8 株式会社エスエスケイ合同記者会見 日本代表新ユニホームお披露目
- ・ 9/4 日韓定期戦2022 試合後記者会見
- ・ 11/18 女子アジア選手権前オンライン記者会見

(2) 国内、国際大会の関連取材・情報提供

- ・ 6月21日～25日 高松宮記念杯第10回全日本社会人選手権大会
- ・ 6月22日～7月3日 第23回女子ジュニア世界選手権
- ・ 7月15日～24日 第17回男子ジュニアアジア選手権
- ・ 7月30日～8月4日 高松宮記念杯第73回全日本高校選手権大会
- ・ 8月4日～7日 第35回全国小学生大会
- ・ 8月5日～7日 全国中学生ハンドボールクラブカップ2022
- ・ 8月19日～21日 第51回全国中学校大会
- ・ 9月4日～7日 日韓定期戦2022
- ・ 10月15日～16日 第24回全日本ビーチハンドボール選手権大会
- ・ 11月3日～7日 高松宮記念杯男子65回女子58回全日本学生選手権大会
- ・ 11月24日～12月4日 第19回女子アジア選手権
- ・ 12月7日～11日 第74回日本選手権大会（男子の部）
- ・ 1月5日～9日 第74回日本選手権大会（女子の部）
- ・ 3月24日～29日 第46回全国高等学校選抜大会Presented by MIZUNO
- ・ 3月26日～29日 第18回春の全国中学生選手権大会

(3) 日本代表合宿 メディア公開

- ・ 4月16日 女子日本代表 第1回強化合宿@福井県、石川県
- ・ 5月7日 女子日本代表 第2回強化合宿@大分県
- ・ 5月18日 女子日本代表 第3回強化合宿@徳島県
- ・ 8月11日 女子日本代表 第4回強化合宿@鹿児島県
- ・ 8月23日 女子日本代表 第4回強化合宿@北海道

※男子日本代表：味の素ナショナルトレーニングセンターが練習場所だったため実施できず

(4) プレスリリース（ホームページ、メール、SNS、PRタイムス）

国内大会・国際大会の結果配信、新規協賛、取材案内、男女日本代表情報など

(5) 個別選手取材

楠本繁生監督、東江雄斗選手、石川空選手、金城ありさ選手、吉川吉平選手（U-19）等

(6) SNS（2022年4月→2023年3月）

- ・ 日本協会 Twitter
8,967人→11,296人（+2,329人）
- ・ 日本協会 Instagram
14,153人→16,747人（+2,594人）
- ・ 日本代表 Twitter
9,933人→11,927人（+1,994人）
- ・ 日本代表 Instagram
9,506人→14,066人（+4,560人）
- ・ Facebook
11,557人→11,746人（+189人）
- ・ YouTube
12,926人→15,402人（+2,476人）

(7) 試合放映

地上波テレビ中継：第74回日本選手権（男子の部）決勝＝NHK Eテレ

6. マーケティングに関する事業

- (1) パートナー企業に対する関心の高い事業へ共同参画出来る機会の創出
 - ・ 学生大会への支援を通じた社名露出機会の創出を約束するパートナーシップ契約（契約内容の履行は2023年度事業より）
 - ・ JOCとのマーケティング連携を通じ、新規パートナーへの特定事業への支援機会の提案（契約内容の履行は2023年度事業より）
- (2) 協賛社同士のコミュニケーション機会の創出
 - ・ パートナーを集めた協賛社交流会を年2回開催した。
 - 1回目：4月27日（水）7社12名
 - 2回目：8月2日（火）7社10名
- (3) ハンドボールに紐づく社会貢献活動を通じた協賛形態の開発
 - ・ JOCとのマーケティング連携の取組の一環で、ビーチハンドボール日本選手権の大会計画に沿った協賛提案を行った。社名露出を中心とした協賛メニューのみではなく、社会貢献活動を通じた協賛社支援がアピール可能な形の協賛内容となる。
- (4) MYHANDBALL 機能を用いた利用者にとって有益と思われる情報の提供
 - ・ 協賛社と提携し、商品、サービス、キャンペーン、クーポン のご案内等の情報の提供を行うことで、協賛社のサービス周知の機会を創出した。
- (5) 新規パートナーとの協賛契約獲得又は内定
 - ・ シルバーパートナー1社との3年間の協賛契約
 - ・ 2023年度ビーチハンドボール事業への協賛内定1社
- (6) JHLとの連携
 - ・ MYHANDBALLの共同利用範囲を整理し、利用者へのさらなる価値提供が可能な体制を構築した。

7. 総務に関する事業

- (1) 諸会議の開催
 - ① 評議員会 6月26日 定時評議員会、23年2月5日 臨時評議員会
 - ② 理事会 6月11日 第一回理事会、6月17日 臨時理事会（書面決議）、6月24日 臨時理事会（書面決議）、10月1日 臨時理事会、11月12日 第二回理事会、12月4日 臨時理事会、2月12日 臨時理事会、2月25日 臨時理事会、
 - ③ 常務理事会 4月9日、5月14日、7月9日、9月10日、11月12日 臨時常務理事会、1月14日、3月11日
 - ④ 全国理事長会 10月1日、2月19日
 - ⑤ オーナー会 9月28日 男子オーナー会。10月7日 女子オーナー会
- (2) ガバナスコードの自己発表をHPにて実施。
- (3) 運用上に課題のある規程の改訂、及び規程の新設を行う。
 - ・ 内部通報運用制度規程の改訂
 - ・ 基本規程の新設
 - ・ 後援名義使用許可基準規程の新設
 - ・ コミュニケーション・ロゴマーク規程の改訂
 - ・ 経理規定の改訂
- (4) 財務関連の数値をタイムリーに集計できるようになる
 - ・ 四半期決算

- ・月次決算
- ・予実管理

※23年度以降は実態と補正予算の乖離をなくすることができるようになる

8. 財務・会計に関する事項

経常収益は、強化協力金、一般登録料が増加したことにより、受取会費が前年度比 15 百万円増加の 193 百万円、マーケティング収入の減少により、事業収益が前年度比 47 百万円減少の 93 百万円、受取補助金等は日本オリンピック委員会等の増加により、前年度比 33 百万円増加の 157 百万円となり、経常収益は前年度比 5 百万円増加の 475 百万円となった。経常費用は、委託費、人件費、旅費等の増加により、前年度比 11 百万円増加の 516 百万円となった。その結果、当期経常増減額は、前期比 6 百万円減少の△ 41 百万円となった。また、特定資産については、欧州遠征の実施、外国籍指導者経費の支払い、男女日本代表消耗品の支払いにより 70 百万円を取り崩し、当期末残高 214 百万円となった。

9. 国際に関する事業

(1) 日本代表チーム・役員・レフェリー等の派遣及び海外チーム招聘等に関する事業

日程	カテゴリー/参加者	大会名称	開催地
4月	TD 1名	第8回女子ビーチハンドボールアジア選手権	タイ
	TD 1名	第2回女子ユースビーチハンドボールアジア選手権	タイ
5月	TD 1名	第31回東南アジア競技大会	ベトナム
6月	女子U-20	第23回女子ジュニア世界選手権	スロベニア
	TD 1名 審判1ペア	第24回男子クラブリーグアジア選手権	インド
7月	男子U-21	第17回男子ジュニアアジア選手権	バーレーン
	審判1ペア	第9回女子ユース世界選手権	北マケドニア
8月	男子U-19	第9回男子ユースアジア選手権	バーレーン
9月	男女代表	日韓定期戦 (受入)	日本
	男女代表	日韓定期戦 (訪韓)	韓国
	審判1ペア	日韓定期戦 (受入)	日本
	審判1ペア		
11月	女子代表	第19回女子アジア選手権	韓国
	審判2ペア		
1月	男子代表	イエローカップ	スイス
3月	TD 1名	第9回男女ビーチハンドボールアジア選手権	インドネシア

(2) 国際会議等ならびに派遣に関する事業

① I H F 関係

- ・ I H F 理事会などの議事内容の翻訳作業を実施した。
- ・ 第 27 回男子世界選手権への代表チームの派遣業務の連絡調整を実施した。
- ・ I H F に関する事務的なエントリー手続き・諸連絡を実施した。
- ・ FCH の調印式に出席した。
- ・ 第 28 回男子世界選手権の観戦を兼ねて FCH の総会に出席した。

② A H F 関係

- ・ 常任理事会 (2 月 web 会議)
- ・ 競技規則審判委員会 (4 月 web 会議)

- ・医事委員会活動報告書を提出した
- ・各カテゴリーのアジア選手権の開催時期変更に対応した。
- ・A H F 会議議題・議事録の翻訳作業を実施した。

(3) その他の事業

- ①国際競技力向上を目的とし、全ての国際大会への手続きを、事務局の国際対応機能を中心として対応した。
 - ・出場権を得た大会にチームを滞りなく派遣することができたほか、関連する諸外国等機関との連携強化を図ることができた。
- ②IHF、AHF および諸外国との関係強化および連携を目的とし、IHF/AHF 総会等へ出席した。
 - ・国際的動静を把握し、各国際交渉の素地の形成に向けた機能強化が図れた。
- ③JOC 各種ミーティングに参加し、国際力強化を図った。
 - ・各 NF との連携強化を確認し、東京オリンピック・パラリンピックへの協力体制を中心とし、国際力向上の機能強化を推進できた。

10. コンプライアンスに関する事項

- (1) 通報事案に基づき、コンプライアンス委員会による法令等違反行為の調査を外部有識者の助言のもと実施 ※4件
- (2) コンプライアンス委員会の円滑な業務遂行ができるよう、外部有識者(弁護士)を委員に加入
※コンプライアンス啓蒙活動はインテグリティ推進委員会にて実施

11. アンチ・ドーピングに関する事項

日本アンチ・ドーピング機構(JADA)と協力し、ドーピング検査(競技会検査)時に競技団体代表者(NFR)の派遣を実施。

- (1) アンチ・ドーピング検査(NFR派遣)の実施
 - ・第74回日本ハンドボール選手権大会(男子の部)
 - ・期日:12月7日~11日 NFR:1名派遣
 - 山口県周南市麒麟ビバレッジ周南総合スポーツセンター
 - ・第74回日本ハンドボール選手権(女子の部)
 - ・期日:1月5日~9日 NFR:1名派遣
 - 鹿児島県鹿児島市西原商会アリーナ
- (アンチ・ドーピング・アウトリーチ活動はインテグリティ推進委員会にて実施)

12. スポーツ・インテグリティに関する事項

本年度は強化本部の活動だけでなく、各本部加盟団体も交えてJHAインテグリティ推進委員会として組織を挙げたの活動を発足した。

各本部が計画立案した事業計画に対する計画実行サポート(教材提供、講師紹介、進捗管理等)政府機関、専門機関(JOC, JSC, スポーツ庁, JSAA, JSPO, JADA, WADA)との連携し、各々の持つ組織課題に向き合うべく活動を実施した。

- (1) インテグリティ委員会の実施
 - ・第1回インテグリティ委員会 5月10日19:00~19:50 ZOOM会議(出席者14名)
 - 議題:インテグリティとは? インテグリティ委員会について(概要)
 - 事業計画作成・各本部団体の活動計画作成の内容についてほか
 - ・第2回インテグリティ委員会について 3月13日19:30~20:00 ZOOM会議(出席者8名)

議題：各本部団体年間活動報告
次年度委員会事業計画について

(2) 強化本部（代表選手強化におけるインテグリティ教育

- ・ JHA行動規範／医事委員会によるアンチ・ドーピング研修／JOC提供プログラム

※主な教育プログラム

- ・ 代表選手・代表スタッフ：JOCによる研修（1. 基礎研修 2. 講師派遣研修 3. 自由参加型研修

(3) オンライン研修

オリンピック強化指定選手向け

①JOC基礎研修プログラム

- ・ 第1回基礎研修プログラム（5月26日）受講者：女子代表12名・男子代表2名
- ・ 第2回基礎研修プログラム（7月6日）受講者：女子代表6名・男子代表3名
- ・ 第3回基礎研修プログラム（8月25日）受講者：男子代表1名
- ・ 第4回基礎研修プログラム（10月6日）受講者：女子代表1名
- ・ 第6回基礎研修プログラム（12月26日）受講者：男子代表1名
- ・ 第8回基礎研修プログラム（3月16日）受講者：男子代表1名（都合により未受講ためレポート提出）

②講師派遣プログラム・NF個別プログラム

男子代表

- ・ 4月1日：日本代表としての行動規範（選手・スタッフ34名）
- ・ 4月3日：アンチ・ドーピング研修（選手・スタッフ34名）
- ・ 8月26日：日本代表としての行動規範（選手・スタッフ27名）
- ・ 12月27日：日本代表としての行動規範（選手・スタッフ32名）
- ・ 12月27日：スポーツインテグリティ総論（国内外スポーツにかかる不祥事案件）
（選手・スタッフ32名）

女子代表

- ・ 4月18日：日本代表としての行動規範（選手・スタッフ37名）
- ・ 5月16日：日本代表としての行動規範（選手・スタッフ27名）
- ・ 6月28日：アンチ・ドーピング研修（選手・スタッフ37名）
- ・ 9月1日：スポーツインテグリティ総論（国内外スポーツにかかる不祥事案件）
（選手・スタッフ22名）
- ・ オンライン研修プログラム（JOCアスリートアプリ）各自申込
ランキング20位/60団体
- ・ 自由参加型プログラム参加斡旋（選手・スタッフ各自申込み参加）

(4) アンダー代表選手他：JOCによる研修ノウハウの提供

（動画教材、研修マニュアルなどを用いた研修）

男子ユースU19

- ・ 6月27日～30日：JOCインテグリティ教材活用（選手・スタッフ25名）
- ・ 6月27日～30日：オンライン研修（選手・スタッフ25名）
- ・ 6月28日：アンチ・ドーピング教育（選手・スタッフ26名）

男子ジュニアU21

- ・ 5月26日：アンチ・ドーピング研修（選手・スタッフ25名）
- ・ 7月10日：日本代表として行動規範（選手・スタッフ25名）

女子ジュニアU20

- ・ 5月23日：アンチ・ドーピング研修（選手・スタッフ25名）

・6月16日日本代表としての行動規範（選手・スタッフ22名）

女子ユースU18

・大会不参加により活動なし

NF担当者向け

・4月26日：第1回JOC-NFインテグリティ教育推進チーム会議

（インテグリティオフィサー・競技種別担当者）

・11月17日：第2回JOC-NFインテグリティ教育推進チーム会議

（インテグリティオフィサー・競技種別担当者）

・9月6日：インテグリティオフィサー・競技種別個別ミーティング

（5）加盟団体の取り組み

都道府県ブロック

・5月26日：インテグリティ委員会の内容伝達・共有

・7月28日：スポーツ庁からの事務連絡（侮辱罪について）の通知

・11月13日：JSC作成インテグリティ教育動画（インテグリティ・SDGs）
視聴依頼（ブロック・都道府県協会）

高等専門学校

9月3日全国高専大会においてアンチ・ドーピングについての動画視聴

全日本学連

11月3日：全日本インカレ代表者会議アンチ・ドーピング啓発、クリーンスポーツ動画視聴
参加大学に2部クリーンアスリートガイド配布

大会期間中ブースを設置しアンチ・ドーピング教育に関して、アウトリーチ活動を実施
（選手・スタッフ・関係者）

高体連

・7月29日：インターハイ代表者会議出場校に「体罰防止」「SNS利用上の注意事項」に関する
リーフレット配布

大会期間中ブースを設置しアンチ・ドーピング教育に関して、アウトリーチ活動を実施
（選手・スタッフ・関係者）

・3月23日：全国選抜大会でも同様に代表者会議にてリーフレット配布

中学生専門委員会

・全中・JOC・春中の大補油者会議において、アンチ・ドーピング教育についてのリーフレット
配布。また、全中クラブ大会等

・大会期間中ブース（全中・クラブ大会）を設置しアンチ・ドーピング教育に関して、
アウトリーチ活動を実施（選手・スタッフ・関係者）

小学生専門委員会

・10月16日：小学生専門委員会インテグリティ研修

・11月7日～2月28日：全国小学生ハンドボール選手・保護者向けアンケート実施
（小学生ハンドボール活動満足度調査）844名実施 小学生の課題の洗出し

指導普及・発掘育成

・6月20日：リモートトレーニングにおいてインテグリティ教育の実施

・10月3日、12月5日センタートレーニングの教育の事前/事後課題として、インテグリティ
教育の実施

※リーグ、車椅子については個別に教育と仕組みを実施

6）JOC及びJSP0公認指導者資格認定等とリンクした育成システムを構築した。

・公認指導者資格<スタートコーチ>にて「指導者の役割と責任」（90分）をカリキュラム必修化

- ・全国27都道府県（6/11～12/11）で合計466名の受講者に実施
- ・公認指導者資格<コーチ3>にて「スポーツインテグリティ」（120分）をカリキュラム必修化
6月25日～26日（愛知）受講者36名
2月18日～19日（千葉）受講者63名

7) アンチ・ドーピングアウトリーチ活動

- ・7月29日～31日：令和4年度第73回全国高等学校総合体育大会（インターハイ） 2名派遣
愛媛県松山市愛媛県総合運動公園体育館
- ・8月4日～5日：第13回全国中学生ハンドボールクラブカップ 2名派遣
埼玉県さいたま市 サイデン科学アリーナ
- ・8月18日～20日：第51回全国中学生ハンドボール大会 3名派遣
函館アリーナ
- ・9月2日～3日：第49回全国高等専門学校選手権大会 1名派遣
高知県
- ・11月3日～5日：第58回全日本学生選手権大会 3名派遣
愛知県豊田市 スカイホール豊田
- ・12月7日～9日：第74回日本ハンドボール選手権大会（男子の部） 1名派遣
山口県周南市キリンビバレッジ周南総合体育館
- ・1月5日～7日：第74回日本ハンドボール選手権大会（女子の部） 1名派遣
鹿児島県鹿児島市 西原商会アリーナ

13. アスリート委員会

(1) 委員会を下記の日程で開催

- ・第1回：4月5日（火）
- ・第2回：4月19日（火）
- ・第3回：4月21日（木）
- ・第4回：6月5日（日）
- ・第5回：8月8日（月）
- ・第6回：10月20日（木）
- ・第7回：11月8日（火）
- ・第8回：12月15日（木）
- ・第9回：1月11日（水）

(2) アスリート委員会の具体的な活動方針と内容を明文化

我が国におけるハンドボールのアスリートの権利権益の保護が図られるよう適正な支援に質する活動の推進、およびアスリートの立場による意見を日本ハンドボール協会へ反映すること。2022年度は、まずハンドボール界のトップである「日本代表」に着目し、日本代表を取り巻く環境の改善に努める。

(3) アスリート委員会からの意見提言を常務理事会・理事会・事務局長に向けて行なった

- ・常務理事会への報告【5月14日（土）】
- ・ホームページへアスリート委員会メンバーの掲載
- ・代表選手へご意見フォームを周知
- ・理事会へ報告【6月11日（土）】
元日本代表選手、現役日本代表選手からの要望を関係本部へ提案
- ・事務局長への意見提言【10月20日（木）】
選手の個人負担金低減
国際大会に参加しない場合の迅速な理由説明
強化ビジョンの展開
日本代表メンバーに外れた際のチームと本人への説明
JHA と JHL のスケジュール連携

1.4. 戦略企画委員会

- (1) 中長期普及マーケティング戦略（スポーツ庁委託事業）

本事業は、スポーツ庁の中央競技団体の経営力強化推進事業として、2020年度、2021年度に助成金を受け進めていた。2022年度は助成金対象事業とはならなかったが、限られた予算のなかで下記を行った。
- (2) 新会員登録システム「MYHANDBALL」
 - ・2021年3月より運用開始した会員登録システムMYHANDBALLが運用2年目を迎え、ユーザーの使い勝手の改善および運用負荷軽減に向けてシステム改修を継続的に行い、ほぼ毎月のペースでアップデートを行いながら、初年度に対応できなかった機能の拡充を図った。
 - ・システム導入当初より準備が進む「チケット機能」は、登録者とチケット購入者を紐づけてマーケティングに役立てることが期待されている。開発元のDNP社との調整を経て、2023年度の大会から利用できる見込みである。
 - ・20万人会の後継となる有料ファンクラブについて、魅力あるファンクラブの企画、およびMYHANDBALLでのファンクラブ機能の開発について調整を行った。2023年度夏にメンバー登録が開始できるよう、準備を継続している。
- (3) 試合スタッツ全網羅 PJT
2021年度のデータ収集の実証実験に加えて、協会に集まる大会公式記録の公開を試行したが、準備から公開に伴う作業負荷の高さを鑑み、本プロジェクトは優先度を下げ、実現の方向について改めて検討することとした。
- (4) 指導者・審判・競技役員サポート PJT
 - ・指導者、審判の事務局で資格の有無を整理し、MYHANDBALLに都度データを流し込みデータ更新する方針で、2021年から試験的にMYHANDBALL基盤と連携実績があるLMS（Learning Management System）の運用を実施。運用する中で、既存教材をシステム用にカスタマイズする・登録するなど新たな工数が増加。また、LMSを利用しない期間もランニングコストがかかる為、LMS導入は断念した。
 - ・一方で、指導者・審判の資格登録の効率化・作業負荷軽減のため、指導者自身がMYHANDBALLへ資格を登録する仕組みを導入。また、2023年度より運用開始する審判の新規資格についても、MYHANDBALLで登録できる環境を準備した。
- (5) 攻めの広報・マーケティング
9月の日韓定期戦を最重要イベントと位置付け、下記取組みを行った。
 - ① 動画再活用 PJT
 - ・JHLの試合プレー映像や、エントリオアリーナの演出映像を再活用したPR動画の制作と発信を実施した。また、前回の日韓定期戦の試合映像・写真も事前に整理し、メディア向けのプレスキットとして提供・再活用した。
 - ② イベント支援
 - ・昨年度から準備していた動画・静止画用のテンプレート素材を用いて「試合当日までのSNSカウントダウン投稿」「公式YouTubeでのBehind The Scene動画（合宿や試合の舞台裏に密着）公開」といった様々な取組みをおこなった。事前露出・興味喚起の拡大に成功し、日韓戦ホーム開催を満員御礼で終えることができた。

1.5. ビーチハンドボール委員会

- (1) 全日本選手権
10月15日（土）16日（日）
神奈川県三浦市三浦海岸特設コート

出場 女子 6チーム (57名)
男子 8チーム (84名)
順位 女子 1位 Thetis東京 2位 SWAG 3位 KUNOICHI
男子 1位 熱砂 2位 BBJ 3位 シースター東海

(2) 委員会活動

委員長、副委員長を中心に各ブロック協会からも委員会へ参加いただき、情報交換を積極的に行った。また、組織改編で、委員会開催前に、委員長、副委員長、事務局にて会議を開催し、委員会をスムーズに開催できるようにした。

(3) プライベート大会

・全国でプライベート大会

各ブックで9回開催された。各ブロック委員、チームの協力が大きい。まだ開催地域が限定されており、全国9ブックすべてで開催できるようにするのと、プライベートで参加しているチーム、大会のためだけにチームを組んでいるチームが多いが、そこから日本選手権を目指し、JHA登録へ結び付けた。

・宮下公園体験会 全8回開催され、一般からの体験会参加者は20名

事業報告に係る附属明細書
記載すべき事項はありません。

以上